

〔通信欄〕

「岡林氏の昭和44年1月上旬の日本海側大雪のときの気象衛星写真」の解説に対する質問とコメント

神 子 敏 朗*

天気之二、三の読者から筆者ならびに土屋会員あて上記短報の内容について、口頭またはメモで質問が寄せられ、また筆者自身質問したいと思っていた点もあるので、潜越ながらそれらを取纏めて質問ならびに意見を述べさせていただきます。

1. 説明3の「収束雲が発生……」の収束雲の意味。
例えば列状雲が発散しているという状態は、発達した熱帯低気圧に伴うコア雲の上部を蔽う網雲の場合に適用できるので、雲バンドまたは列状雲が一点またはある地域に向って収束している場合、その各々または集合を収束雲と云うものと想像していた。しかし岡林氏が指摘している収束雲はそのようなものではないらしい。したがってこのような新しい用語を使用する場合には読者に誤解を与えないよう注釈を付した方がよい。同様に説明5に記述されている雲のすぢの流れの不連続線のような読者に混迷を与える表現はなるべく避けた方がよい。
2. 説明2に「収束雲」あるいは顕著な雲バンドがぶつかった地域が大雪となっていると書かれてあり恐らくそうかも知れないが、この雲バンドの特性についても記述すべきではなからうか。なお説明1や5に指摘されている部分は衛星の写真を使用して行った日本海側の大雪の調査文献(3)から(9)にもあり、それらの調査では得られなかった現象の明確な指摘またはそれらに述べることと同じ結果があるならばその旨を述べるのが望ましい。
3. 説明4の「小低気圧」は雲バンドがずっと以前に発生していることから見ると両者には関係がないと思える。
4. 説明6に収束雲が北陸不連続線の全容ではないかと書かれているが、北陸不連続線に関するいままでの調査文献(1)、(2)によると、これは冬の季節風の期間に北陸沿岸に沿い、ある条件下において発生する陸地からの南よりの風と、海上からの北よりの風の間に介在するシア-線であって、雲バンド即北陸不連続線という結

果が得られるまでには、正確なグリディングが必要で、しかも現在入手されているAPT写真の質の向上すなわち階調(グレースケール)の増加が必要である。

参考文献

- 1) 石原健二, 1950: 北陸地方における雪の予報問題(その3), 北陸地方研究会誌,
- 2) 気象庁, 1968: 北陸豪雪調査報告, 気象庁技術報告, 66.
- 3) 二宮洗三, 1965: TIROS 資料による冬期日本海上の雲分布の解析, 昭和40年秋学会予稿集, 70-71.
- 4) 土屋清, 1965: 気象衛星資料による東北南部, 北陸地方の大雪の機構の調査, 昭和40年秋学会予稿集, 74.
- 5) 土屋清, 1966: 気象衛星——宇宙からみた地球の天気, 学芸書房.
- 6) Tsuchiya K. and T. Fujita, 1967: A satellite meteorological study of evaporation and cloud formation over the western Pacific under the winter monsoon, J. of Meteor. Soc. of Japan, 45, 232-250.
- 7) Tsuchiya K. and T. Fujita 1968: The studies of winter Pacific regions, U.N. Conference on the Exploration and Peaceful Uses of Outer Space, 26, pp
- 8) Matsumoto S., K. Ninomiya and T. Akiyama, 1968: Mesoscale analytic study on a lined-up cumulus row caused by orographic effect under the winter monsoon situation, J. Meteor. Soc. of Japan, 46, 222-233.
- 9) Asai T., 1966: Cloud bands over the Japan Sea off the Hokuriku District during a cold air outburst, Papers in Meteor. and Geoph., 16, 179-194.

* Toshiro Kamiko (気象庁)
—1969年3月26日受理—